

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：24010

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇「ユニバーサルデザイン授業」をキーワードとしながら「全員参加」を目指し、「子どもたちが積極的に学習に向かうため」や「子どもたちが1時間集中して学習に取り組むため」の手立てを工夫した。</p> <p>◇ワークシートの活用やノートの書き方の統一など、授業のスタイルをパターン化することで、子どもたちに学習の見通しをもたせることができた。</p> <p>◇児童アンケート「自分で計画を立てて学習している」という項目では、75%の児童が自覚しており、家庭学習や宿題の習慣がついてきている成果だと感じる。</p>
	<p>◇児童アンケート等を見ると、学習に対し困りを抱えている児童は、勉強に対し「わからない」「つまらない」「難しい」「嫌い」と、回答している。教科書だけの学習ではなく、体験的な活動や遊びなどを通して学ぶなどの工夫もしていく必要がある。</p> <p>◇学習に対する意欲があまり高くなく、難しく感じることを避ける様子が多々見られる。クロームブックの持ち帰りを再開することで、週末に自分で調べたいことを調べたり、家庭学習に使用したりすることで、学習意欲を今年度は高めていきたい。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇共通指標アンケートでは、「自分が必要とされている」という相互承認に関する項目では、年々、肯定的な回答をしている児童が増えている。一方で、相手のよさや頑張りを見付けたり、認めたりすることが苦手な児童も多いため、互いのよさを認め合えるような場を授業の中で設定し、「自己肯定感」や「自己有用感」そして「(個人の)主観的ウェルビーイング」を高める教育活動が本校の児童には必要である。</p>	
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力</p> <h2>意欲をもって、自ら学習に取り組む力</h2>	
取組	<p>課題探究的な学習の推進 に向けて</p> <p>「ユニバーサルデザイン授業」と「AAR サイクル」を意識した授業の構築</p> <p>(1) 子どもが学習への意欲をもち続ける教材化の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが単元全体の見通しをもち、自ら安心して学習に取り組み、自分の取り組んだことを振り返ることができるような手立ての工夫 (イントロダクション) <p>(2) 子どもが考えをもち伝え合う場における教師の関わりの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに自信をもって個別・協働探究できるように、教師による即時評価、子どもたち同士による相互評価を意識して行い、の思考改善や再構築に繋がるような教師の関わりの工夫。(リフレクション)
	<p>自治的な活動の充実 に向けて</p> <p>学校重点目標である『「あこがれ」と「思いやり」があふれる学校』を子どもたちの自治的な活動で実現</p> <p>①学級での話し合い活動や各児童委員会での話し合い活動の実施により、学校課題を自分事として捉え、考えさせる。</p> <p>②よりよい学校づくりに参加していると実感できるように、定期的に自分たちの生活を振り返る場を作る。</p>
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇複数のツールの中から、生徒が自ら選択できるような環境を整備する。ツールの利点などの特色について 事前指導の機会を設ける。◇主に自治的な活動について、Googleform で意見を集約したり、一人ひとりの考えが視覚的に見て分かるように可視化したりする工夫で、いろんな意見を集約・分析し、まとめる力もつけていきたい。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

